

(短評) 『社会保障・税一体改革の政治過程分析』 香取照幸著

2026/4/18付 | 日本経済新聞 朝刊

■ 『社会保障・税一体改革の政治過程分析』 香取照幸著

消費税の税率を5%から10%に引き上げた「社会保障と税の一体改革」のプロセスを詳細にまとめた。

厚生労働省の官僚だった著者は2度の政権交代という政治の荒波にもまれながら各省庁の利害も絡む改革を事務方として主導した。社会保障の拡充と安定財源確保の同時達成を図る一大プロジェクトの裏も表も知り尽くす人物だけに、その記録は示唆に富む。

消費税が10%になってわずか6年余り。政治はポピュリズムの様相を強めた。「右から左まですべての政党が給付金だ、補助金だ、保険料軽減だ、減税だと言うばかりで誰も財源の話をしていない」。大改革の軌跡をたどった最後に著者に突きつけられる言葉が重い。(日本経済新聞出版・4620円)